

かけはし

足柄上病院の病院理念

「あ」：安全で安心な医療を提供します。
「し」：社会の要請を担う政策医療を展開します。
「か」：患者中心の医療を実践します。
「み」：魅力ある自立した病院を目指します。

初秋号 (通刊 第 42 号)

看護局の人材育成と 看護活動について

看護局長

たか はし ちか こ
高 橋 親 子



(日本看護協会認定看護管理者)

足柄上病院は昭和25年にオープンし今年62年目となりますが、一貫して地域に支えられ、地域のニーズに対応しながら成長してまいりました。

私たちの目指す看護は、病院方針を踏まえ患者さんの願い・価値観・目標を理解し尊重しながらケアに当たり、患者さん中心の看護を実践することです。具体的には、苦痛や不安の軽減を図り生活機能改善への支援を行い、患者さんやご家族にご理解いただけるよう必要な情報を提供し、さらに退院後も不安なく継続したケアが保証されるよう調整することです。

これらを深めるために人材育成に力を入れています。看護科長が看護師一人ひとりのキャリアカウンセリングを丁寧に行い、各々が自己目標を設定し、関連する研修や看護実践を通し、目標を達成していくスタイルです。本人の主体性を大事にし、やりがいを実感できるよう支援しています。また病院の修学支援制度を利用し、資格を持つ看護職員も増えています。家族支援領域の専門看護師を始め、感染管理・皮膚排泄ケア看護・がん化

学療法看護・がん性疼痛看護・小児救急看護・救急看護・糖尿病看護および緩和ケア、合わせて9領域11人の専門・認定看護師のほか、糖尿病療養指導士12人、院内認定高齢者看護師4人などです。それぞれ資格を活かすべく、横断的な活動をおし、多種職と連携しながら医療の質向上に大きく寄与しています。このような専門的資格を持つスタッフをリソースとして、地域連携の新たな切り口となるよう、地域でも活用していただけたらと考えています。

当院のセールスポイントは、高齢者総合医療を多職種チームで取り組んでいること、救急医療、助産師による院内助産、地域医療連携、看護専門外来などです。

その中で資格を持つ看護師が担当する看護専門外来の活動について説明します。①糖尿病フットケア外来：糖尿病療養指導士によるフットケアを始めとする療養指導 ②ストーマ外来：オストメイトが安心して日常生活が送れる支援 ③母乳育児外来：母乳育児支援のための乳房ケアや育児相談・指導 ④助産師外来：妊婦検診を通し、安全でより満足度の高いお産ができる支援 ⑤外来化学療法相談：化学療法を受ける患者さんの相談・指導を通し、在宅での医療支援などを行っています。どの活動も患者さんと職員の満足度が高まっています。加えて経験豊かな看護師の活動も患者さんの生活支援に大きく貢献しています。

今後、看護の力を今以上に発揮できるよう調整能力を高め、地域との連携を一層密にし、院内外の活動を通して地域住民の健康を守るため、職員一丸となってがんばりたいと思います。

消化器内視鏡外来



総合診療科

くに し よう すけ
國 司 洋 佑

<はじめに>

当院総合診療科において本年5月に「消化器内視鏡専門外来」を開設しました。毎週月曜日の午前中に診療を行っておりますので今回ご紹介いたします。

<胃癌・大腸癌と内視鏡>

現在胃癌、大腸癌は日本の癌死因の第2位、第3位となっており（第1位は肺癌）、特に大腸癌については今後さらに増加することが予想されています。これらの病気の早期発見に欠かせない検査が内視鏡検査（一般的には「胃カメラ」、「大腸カメラ」と呼ばれています）です。近年内視鏡機器の進歩などにより、かなり小さな癌も見つけられるようになってきました。これらの癌は小さな状態で見つけることが出来れば、内視鏡で治療することも可能であり、体への負担も小さくて済みます。ただし早期段階の癌は症状を伴わない場合も多く、内視鏡治療が出来る段階で癌を発見するためには、症状をあまり我慢せずに早めに内視鏡検査を受けることが大事であると考えます。

当院では内視鏡検査での病気早期発見と内視鏡治療に力を入れており、近年普及しつつある早期胃癌に対する専門的内視鏡治療（内視鏡的粘膜下層剥離術：ESD）にも対応しております。またつらい内視鏡治療を苦痛なく受けていただくため、鼻からの胃カメラ（経鼻内視鏡）や鎮静薬を使用した（眠った状態で出来る）内視鏡検査も行っています（人員やスペースの関係から検査を受ける全員には対応できないのですが、希望者には出来る限り対応いたしますので御相談下さい）。

当院では内視鏡検査を御希望される方は、できるだけ早く（胃カメラであれば来院された当日に）検査が出来るようにしております。内視鏡検査を御希望の方は外来で御相談下さい（来院当日の置

カメラを御希望の方は朝食を食べずにお越しください）。

<C型肝炎>

現在日本においてC型肝炎患者は200万人にのぼるとされ、ここから肝硬変、肝臓癌に発展し、治療を受けている患者さんが多くいます。以前までC型肝炎は治らない病気であるとされていましたが、インターフェロン治療の登場により徐々に治癒するケースが出てきました。C型肝炎ウイルスには1型と2型という2種類のタイプがありますが、日本人に多い1型のC型肝炎はインターフェロンが効きにくく、これまでの標準治療（ペグインターフェロンとリバビリンの2剤併用療法）では治癒率は50%程度にとどまるとされてきました。

昨年11月にテラプレビル（商品名：テラビック）という薬が発売となり、1型のC型肝炎に対してはこれまでの治療薬（2剤）にテラプレビルを加えた3剤併用療法が標準治療となりました。現在この3剤併用療法によって治癒率は70%ほどまで上昇したとされています。

この新薬は注意すべき副作用も報告されているため、対応できる病院が限られており、神奈川県西部地区においては当院のみが治療可能施設となっております。治療を行うべきかどうかについては専門的な判断も必要となるため（全員が受けられる治療ではありません）、C型肝炎を指摘された方は（できれば紹介状を持参のうえ）当院外来を受診していただければと思います。

<さいごに>

当院の消化器内視鏡専門外来は、専門性を追求しつつも患者さんの全身を診る「総合診療内科」の視点を重視して診療にあたっております。消化器疾患でお悩みの方は御相談下さい。

<担当医師> 國司洋佑（総合診療科医長）、玉井拙夫（副院長）

*「消化器内視鏡専門外来」は消化器内科あての紹介状をお持ちの方を対象としております。紹介状をお持ちでない方は、まず総合診療科の新患外来を受診していただきますのでご了承ください。

なお内視鏡検査を御希望の方は（月曜午前中であれば）、紹介状をお持ちでない方も当専門外来で診察いたします。

食物アレルギーの 診断について ～本当は食べられるかも!?



小児科

真部 哲治

<食物アレルギーの経過>

乳児期にアトピー性皮膚炎として発症するか、あるいは離乳食開始後に、原因食物を直接摂取し、蕁麻疹などの強い症状で発症することが多いです。原因が確定したらその食物の除去を行っていくのが治療の基本です。しかし、ずっと食べられないのではなく、大部分は小学校入学前には食べられるようになります。

<食物アレルギーの診断>

食物アレルギーを疑った時、血液検査はよく行われ、その結果は参考になります。しかし、それだけでは食べられないかどうかは分かりません。検査で数値が高くても、実際に食べてみると症状が出ないこともあるからです。確定診断には食物負荷試験という検査が必要です。

<食物負荷試験とは>

今まで除去していた食物を実際に食べてみて大丈夫かどうかをみる検査です。当科では2008年9月より半日入院という形で行って来ました。なぜ、病院で行うかというと、アナフィラキシーという

強いアレルギー反応が出現することがあり、自宅で行うには危険を伴うからです。なお、昨年度は延 355 例と関東全体でも 5 本指に入る検査数を行いました。

<食物負荷試験の方法>

2012年7月現在は、火曜日の午後(月2回)、水曜日の午前、午後に行っています。検査に要する時間は強いアレルギー反応が出なければ約3時間です。実際に食べていただく食材はご自宅から持参していただいています。

負荷食は不均等に3分割し、30分おきに時間かけて摂取します。そして、その後、約2時間の経過観察をします。アレルギー反応が出た場合にも、すぐに対処できるよう病棟スタッフが近くにいますので、安心して検査を受けていただくことができます。

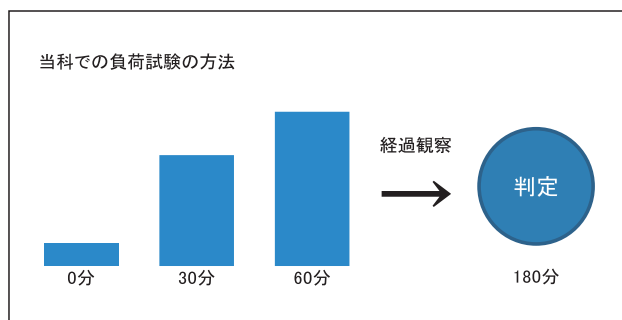
<食物負荷試験を希望される場合は>

お子さんが食物アレルギーかどうか気になる方、食物アレルギーがよくなったかどうか気になる方は、月・火・木・金曜日の午前中の外来に気軽にご相談ください。年齢やこれまでの経過や血液検査の結果などを参考に負荷試験を行うかどうか保護者の方と相談して決めていきます。なお、当科では血液検査の数値が高い場合でも積極的に負荷試験を実施し、可能な範囲で部分的な除去の解除を行うことにより、患者さんの食生活における負担を減らす事を心がけています。

例えば、卵の場合、全卵24g(1/2個)を症状なく摂取するのは難しそうな患者さんには、まずその1/10の量である2.4g(1/20個)の負荷試験を行います。全卵2.4gが摂取できれば、ロールパンやボーロ、ラーメンなどを食べることが可能となります。少しでも食生活の幅が広がればいいなと思う方は気軽にご相談にいらしてください。

<今後について>

4月から日本アレルギー学会の専門医が2名となりました。より一層、地域における活動に力を入れ、食物アレルギーの子供達が安心して生活できるよう全力で取り組んでいきたいと思えます。



「救 急 救 命 室」



救急救命室長（総合診療科）

よし え こう いち ろう
吉 江 浩 一 郎

<はじめに>

足柄上病院では各診療科の通常外来とともに緊急の状態に対応するために急患室での診療も行っております。内科系の疾患に関しましては総合診療科、循環器科、神経内科の医師が順番に診療に当たっており、また外科系の疾患には救急専門医の大貫先生を中心として外科系の先生方に頑張ってもらっています。また17時以降は当直医（内科医師1人、産婦人科1人、小児科1人）で夜間救急を担当しています。急に体の状態が悪くなった場合に診療が可能なように24時間対応できるようにしています。現在も風邪の方から心筋梗塞や脳梗塞など重症の方までさまざまな病気の方が来院されています。

今年は暑いせいか脱水で来院される方が非常に多いので、水分、塩分をなるべく多く摂るようにしてください。あまり暑いところに長くいることも危険です。人は喉が渇く頃には脱水になっていることがありますので喉が渇いたと思う前に少しずつ水分、塩分の補給をすることがもっとも安全な対策です。水分補給が少なく脱水になることによって、尿路結石、脳梗塞、脱力などが生じることがありますので注意して下さい。

<受診に関しまして>

急患室での対応では風邪、発熱の方ももちろん、心筋梗塞や敗血症などの重症の方も来院されます。なるべく早く診察をしなければいけない患者さんを優先して診察できるように努力をしていますが、直接急患として来院された場合は、先に来ている患者さんから診察するために診察が遅れてしまう可能性があります。来院される場合は予め病院に電話して相談いただきたいと思います。また、非

常に重症な病気の方、すぐに治療を開始しないと重大なことを引き起こしてしまう可能性のある疾患で来院された方が優先となることがありますので、診察の順番が後になり、待つてしまうことがあります。

特に胸痛、突然の頭痛、突然の麻痺、吐血、発熱して意識障害がおかしくなるほどの状態では、少しでも早く治療をした方が良い心筋梗塞や脳梗塞、敗血症などの疾患の場合がありますので救急車を呼ぶなどして、なるべく早く来院するようにしてください。

脳梗塞に対する血栓溶解療法も開始しており、現在のところ平日の9時から17時の間で対応しています。出血など治療による合併症もありますので全ての脳梗塞の方で治療が出来ないことがあります。特に発症してすぐでないと治療効果もないため、救急隊の方の協力のもと、脳梗塞に対する血栓溶解療法が出来る方を連絡していただくようにしています。急な麻痺が出た場合は救急隊に連絡してすぐに来院していただくことが大切です。



リハビリテーション科から 装具外来のお知らせ



リハビリテーション室
室長

なが さわ か な え
永 澤 加 奈 恵

<はじめに>

リハビリテーション科では、リハビリテーション専門医の安藤徳彦医師、横山修医師の2名の非常勤医師が週2回、月曜・木曜日午後外来診療を行っています。脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）を始めとする中枢神経疾患、内科疾患、整形外科疾患等の患者さんに対して機能障害の診断・治療を行います。効果的なリハビリテーションが実施できるように訓練プログラム、訓練目標を明確にして理学療法（PT）、作業療法（OT）および言語療法（ST）に訓練を処方します。

また、身体障害者手帳申請のための診断書の作成や補装具の診断・作製も行っています。

<装具外来について>

平成24年9月から毎週月曜日、午後2時から3時まで、装具の作製、修理を行う専門外来を開設しました。義肢装具士が毎週来院し医師の処方の下に、採型（型取り）、仮合わせを行い、適合判

定の後引き渡しとなります。主に脳血管疾患の患者さんの短下肢装具（支柱付装具、プラスチック装具、オルトトップなど）、および義足の処方、作製を行います。

新規作製や他院で作製した装具の修理、再作製にも応じます。在宅復帰のために遠方のリハビリ専門病院に入院し装具を作製された高齢の患者さんやご家族の方から、自宅近くの当院で装具の作り変えができないか、との要望が以前からありました。そのような声にお応えできるように、他院で作製された装具の修理や再作製についても当院で対応できるようになりました。

<受診方法>

装具外来は予約制となっています。リハビリテーション室技師室へお電話の上、予約をお取りください。

身体障害者手帳をお持ちの方は、各市町村福祉課から申請用紙を受け取り病院1階受付へ提出してください。

診療費用は保険診療となりますが、装具作製、修理に関わる費用は自己負担となります。

装具外来は2号館2階リハビリテーション科外来にて毎週月曜日の午後2時から横山医師が行います。

装具外来その他リハビリについてのご相談、ご質問はリハビリテーション室技師室へご連絡ください。

連絡先 ☎ 0465-83-0351(代表)



左：支柱付短下肢装具 右：プラスチック製装具

注！



まだまだ暑い日が続きます。
水分補給してください！

医療安全週間

平成13年に開始された「患者の安全を守るための共同行動」の一環として、国民の医療安全に対する理解を深めることを目的として、医療安全週間が設けられました。足柄上病院では、9月5日～14日の10日間を医療安全週間として、職員の研修の他、患者さんへのイベントも企画しています。

今年は、部署ごとに日々の医療安全への取り組みをポスター展示します(写真は昨年の様子です)。また、小中学生の皆さんに募集した医療安全のポスターを掲示するほか、9月13日には患者さんのご家族を対象とした介護教室を開催いたします。

さらに、期間中マスクやポケットティッシュの配布なども企画しています。医療安全には患者さんのご協力が必要です。お名前の確認や、お薬の確認、歩きやすい履物の利用など是非ご協力お願いいたします。



お問い合わせ 3号館3階 医療安全推進室

糖尿病公開講座

場所：足柄上病院 講義室
(但し、9/20のみ研修室1・2)

時間：17:00～18:00

費用：無料 予約不要

対象：糖尿病患者・家族
及び一般

お問い合わせ：経営企画課

第3回	糖尿病の合併症(眼科)	医師	9月20日
第4回	糖尿病の合併症(循環器)	医師	10月25日
第5回	運動療法・フットケア	理学療法士 看護師	11月29日

足柄上病院Restaurant(レストラン)がオープンしました！

7/25から10:00～15:00の時間帯に営業がはじまりました。
日替わりメニューです！どうぞご利用ください。



募集・・・「かけはし」に掲載する広告を募集しています。

詳しくは経営企画課まで。

発行：神奈川県立足柄上病院 〒258-0003 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領866-1
(TEL) 0465-83-0351 (FAX) 0465-82-5377 <http://kanagawa-pho.jp/about/index.html>
編集：神奈川県立足柄上病院経営企画課 (内線) 5520